

普及活動情勢報告（令和7年11月分）

高吾農業改良普及所

ニラ農家の生産安定に向けて～ニラ月例会の開催～



月例会の様子

11月7日、JA高知県永野集出荷場でニラ月例会が開催され、7名の生産者が出席しました。
気温も低下し、ほとんどのハウスで天被覆が終了して冬場の管理が始まることから、普及所は、これから問題となる白斑葉枯病や褐色葉枯病の病害防除や温湿度管理等について講習しました。併せて、営農支援サービスSAWACHIへの加入を促進しました。生産者からは、病害防除や温湿度管理の大切さについて認識できたといった意見が出されていました。
普及所は、今後もJAと連携してニラ農家の生産安定を支援していきます。

苺における新たな花粉媒介昆虫の検討 ～マルハナバチ実証試験～



設置したマルハナバチの巣箱

11月13日、JA高知県佐川支所苺部会生産者1名のハウスで、マルハナバチを活用した実証試験を開始しました。
苺部会では近年、冬場の低温時にミツバチの活動量が減少し、奇形果が発生しているため、ミツバチに比べ、低温時の活動量が多いマルハナバチの試験導入が進んでいます。普及所では、実証生産者のハウスで冬場の奇形果率を調査する予定です。
生産者からは「単価の高い冬場の品質を上げていきたい。」、「マルハナバチとミツバチの管理の違いに気をつけていきたい。」といった声が聞かれました。
普及所では、今後も定期的な巡回や調査を通して、生産者の収量や品質の向上をサポートしていきます。

ユズ栽培等の座学を開催 ～地域おこし協力隊の就農を目指して～



防寒対策のポイントを説明

11月19日、普及所は仁淀川町役場で仁淀川町の地域おこし協力隊5名にユズ幼木（2年株）の防寒対策と茶及び果樹等の品目ごとの年間作業時間について座学を行いました。
まず、①なぜ、茶栽培+αがユズ栽培なのか、②ユズの由来、③この時期に行う幼木の防寒対策について説明しました。続けて年間の作業別労働時間から品目ごとの作業ピークを説明し、全体的なイメージを確認してもらいました。
協力隊からは、「防寒対策である囲い込みの際の枝の整理はどうするのか」、「防寒対策の現地指導をお願いしたい」、「労働時間の配分は自分たちでも実施できる時間か」など実践を見据えた率直な質問が出されました。
普及所は今後も、仁淀川町の担い手となる協力隊に対し、就農後の所得確保に必要な茶、果樹などの技術習得の指導を実施していきます。